

タイトル	水稻の減化学肥料栽培を目指し牛ふん堆肥散布を実施		
記 事 容	とき	平成18年10月25日（水）	
	ところ	設楽町東納庫	
	主体 対象	名倉東部集落15名 畜産農家1名	
	内 容	<p>10月25日と11月8日に、設楽町東納庫東部集落で約2.8haの水田に牛ふん堆肥が散布された。これは、3年後には水稻での化学肥料使用量5割削減を目標に実施されたものである。</p> <p>農業改普及課は、設楽町の穀倉地帯である名倉地域で平成16年度から3年間を費やして、牛ふん堆肥を10a当たり2tの連続施用による化学肥料5割削減の栽培実証に取り組み、本年に技術を確立した。この技術確立を受けて、名倉東部集落を対象に堆肥散布を推進した結果、集落では中山間地域等直接支払制度を活用して、8戸の農家が取り組むことになった。</p> <p>この日は、事前にフレコン詰めした堆肥（500kg入り）をほ場脇に配置したものを、ユニック付き堆肥散布機（3.5t）で実施したもので、10a当たりの所用時間は20～25分であった。</p> <p>堆肥散布を実施した結果からフレコンによる堆肥流通は、畜産農家に堆肥の詰め込みと運搬作業に手間がかかることが判明し、今後とも継続的に散布するには問題があるため、農業改良普及課は集落の代表農家や畜産農家等の関係者と検討を重ね、新たな堆肥散布手法の構築に向け支援をしていくことにしている。</p>	